



世界に希望を生み出そう

2023~2024 年度  
国際ロータリーのテーマ

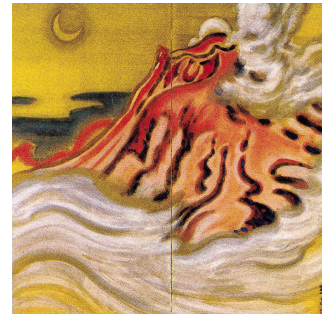
# Weekly Report

## 小諸浅間ロータリークラブ

◆例会日/週木曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽  
◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階

◆会長 / 鴨下 直哉 ◆副会長 / 青松 英和  
◆幹事 / 両川 博之 ◆広報・情報委員長 / 小山 等

NO. 1596 令和6年2月1日



◆点鐘	鴨下 直哉 会長
◆SAA	倉本 浩行 委員長
◆ソング	君が代・誕生日の歌
◆ゲスト	山岸 喜昭様 (長野県県議会議員)

### ◆誕生祝

青松 英和会員・前田 博志会員  
田中 陽介会員

### ◆結婚祝

矢島 栄一会員・まゆみ夫人  
両川 博之会員・栄子夫人

### ◆皆勤祝

矢島 栄一会員(16)  
倉本 浩行会員(1)

### 【会長挨拶】鴨下 直哉 会長

#### LINEを有効活用

プライベートではもちろん、最近では「仕事の連絡もLINEで行っている」という人も少なくないのではないのでしょうか？メールや他のビジネスチャットに比べて、LINEは慣れているぶん、使いやすいと感じている人も多いでしょう。しかし、LINEは気軽に利用しやすい反面、注意すべきこともあります。仕事でLINEを使う具体的な5つのメリットについて見ていきましょう！

#### 1. 手軽に連絡できる

LINEの1番の魅力は手軽に連絡できることでしょう。まるで、会話をしているような感覚でやりとりができるのは大きな魅力です。また、ビジネスメールは、大事なメールが不要なメールに埋もれて気がつけない恐れがあるデメリットがあります。その一方でLINEなら普段も使うため、通知を見落とすこともありません。さらに、無料で電話ができるのもLINEならではの魅力的なポイントです。

#### 2. 画像のやりとりが楽

画像のやりとりが簡単なのも、LINEのメリットです。メールなら容量の大きさによって送信できないケースもあります。しかし、LINEなら画像の大きさに関係なく簡単に送信可能です。複数の画像を選択して一気にアルバムを作ることができるのも便利なポイントです。さらにLINEなら画像だけでなくpdfなどのファイルや動画も簡単に送信できます。メールよりも多くのことができるぶん、LINEはビジネスでも利用するメリットが大きいといえるでしょう。

#### 3. 複数人でのやりとりができる

複数人で同時にやりとりができるのも、LINEの便利なポイントです。チャットでのトークはもちろん、画像の送信アルバムの作成、通話、ビデオ通話なども複数人で共有できます。

1度でやりとりができるため、手間や時間が省けるのも大きなメリットです。

#### 4. 相手が読んだかわかる

LINEでは相手がメッセージを読むと「既読マーク」がつかますよね。既読マークによって、相手が読んだかどうかをひとめで判断できるのもLINEのメリットです。たとえ返信がなくても、既読マークがつけば「読まれた」ということがわかります。

送信して相手を読んだことがわかるため、必要以上に心配せずすむでしょう。

ただし、既読マークがついたからといって、必ずしも内容を読んでいるとは限らない点には注意が必要です。急ぎの用事なら、電話で確認するようにしましょう。

#### 5. 距離が縮まりやすい

一般的なメールでは、「かしこまってしまう」「本題になかなか入りづらい」などのデメリットがありますよね。その一方で、LINEならまるで職場で会話をしているようなカジュアルなやりとりが可能です。フランクなやりとりができるため、距離も縮まりやすくなります。

コミュニケーションが上手いけば、仕事がいやしくなり人間関係もよくなるでしょう。

次に仕事でLINEを使う際の3つのデメリットについてご紹介していきます。

#### 1. 上司世代とは感覚に差がある

若手ビジネスパーソンは、10代からLINEをフル活用してきたのではないのでしょうか？しかし、そんな若手ビジネスパーソンの上司世代における40代以上の人にとっては、LINEへの印象や扱いに違いがあります。上司世代の人にとってのビジネスメールといえば、形式的であるのが当たり前の感覚です。そのためチャット形式のLINEに対しては、「遊び感覚」や「軽いイメージ」といった印象を持っている人も少なくありません。

持っている印象の違いから、同じ世代に送る感覚でスタンプなどを送信すると、失礼だと思う上司世代の人もいます。若い人は、上司世代とはLINEに対する感覚や印象、扱い方に違いがあることを大前提として認識しておきましょう。

#### 2. 仕事とプライベートが分けにくい

LINEは会話感覚で利用できるため、便利なのは間違いありません。

しかし、LINE はプライベートでも活用するツールです。そのため、あまりにも頻繁に会社の人とのやりとりを行うと、仕事とプライベートとの区別がつきにくくなります。会社の人とのやりとりが続くと、人によっては1日中仕事から開放されていないような気持ちになってしまうでしょう。ストレスを溜めないためには、業務時間以外は仕事関係の人とのLINEを控えるなど、自分でメリハリをつける必要があります。

### 3.長文は読みにくい

LINEはチャットツールであるため、短い会話に適しています。そのため、長文となると非常に読みづらいです。しかし、ビジネスシーンでは連絡次項など、どうしても長文になってしまうケースが多々ありますよね。長文のやりとりが多いなら、一般的なメールの方が適しているでしょう。

## 【幹事報告】 両川 博之 会員

- ロータリーレート変更について  
2月より1ドル=147円(現行141円)に変更
- 国際ロータリー第2600地区よりRLI補修コース開催のご案内  
日時:2月18日(日) 9:00~16:00  
場所:塩尻市市民交流センター(えんぱーく)202号室
- 長野南ロータリークラブよりクラブ例会場移転のお知らせ  
新例会場:一味真  
〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1681-1  
TEL 026-285-5252  
移転日:令和6年2月5日(月)より

### 4. 例会変更

- 佐久コスモRC 2月12日(月) 定刻受付なし  
2月19日(月) 定刻受付なし  
3月11日(月) 定刻受付なし  
千曲川RC 2月14日(水) 定刻受付なし  
2月21日(水) 定刻受付なし

### 本日の配布物

- 週報第1595回、理事会報告、委員会構成表、  
確定申告用寄付金領収証、  
抜萃のつづり(東京ロータリークラブ)  
・例会終了後、現次期合同理事会

## ◆出席報告 小林 秋生 委員

会員数 19名 出席義務者 18名 免除者 1名  
本日 出席 15名  
事前MU 0名 83.33%  
前々回(1/18) MU 1名 77.78%

## ◆委員会報告

### クラブ運営委員会 倉本 浩行 委員長

3月7日創立夜間例会にて、小諸高校音楽科の生徒を招待し、演奏をしていただきます。

## ◆ラッキー賞

No.15 前田 博志 会員

## ◆ニコボックス 倉本 浩行 委員長

山岸義昭君	久しぶりにこのような機会をいただきありがとうございます。よろしくお願ひします。
前田博志君	ラッキー賞、誕生祝 ありがとう。
矢島栄一君	本日、結婚祝いと皆勤賞をいただきありがとうございます。
両川博之君	結婚記念日祝いありがとうございます。先週ラッキー賞 1000円入れ忘れたので。
倉本浩行君	皆勤祝、ありがとうございます。
小山等君	山岸先生、今日はよろしくお願ひ致します。掛川さんの送別会に出られた方は、不足金をお願いします。
川野義春君	山岸県議の県政報告、楽しみにしております。

黒澤明男君	なんとなくです。
加藤輝男君	皆様、ご苦勞様です。能登半島被災者の方、本当に大変な思いをしていると思っています。うちの会社でも、土木建設の仕事で能登の現場に応援に行ってきます。頑張ってやってきます。またスポーツのことですが、日本サッカーが3対1で勝ちました。素晴らしいことだと思います。是非優勝していただきたいと思っております。
田中陽介君	誕生日ありがとうございます。55歳終わりの始まりですが、元気にやっていきたいです。
小池平一郎君	たくさんのニコボックスご協力ありがとうございます。

## ◆ 【本日のプログラム】 卓話「県政報告」 山岸 喜昭 県議会議員



新年あけましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆さんにおかれましては日頃から、県政、市政に大変に御理解と、御協力を賜わりまして、誠にありがとうございます。又、昨年は、県議選におきまして御支援をいただきまして、4期目県政に送っていただきましてありがとうございます。今、県議会におきましては、常任委員会では、環境・文教委員会に属し、特別委員会では、議会運営委員会、審議会では観光振興審議会委員を拝命しています。また、県の監査委員会委員を知事から委嘱されまして活動しています。新年にあたり、気持ちも新たに、と思うところでありましたが、突然に、北陸地域を襲う、能登半島地震が発生しました。翌日2日には、羽田空港にて、飛行機の衝突事故と、正月気分も一変に吹き飛んだところでもあります。

日増しに、被害状況も拡大し、多くの犠牲者、倒壊した家屋、水道、電気、道路、港など、見るに堪えない状況であります。すさまじい地震の爪痕を、目の当たりにすると共に、被災者の方々が大変苦勞している声や、又、将来に対する不安の声をお聴きしまして、改めて、被害の甚大さと、現地の厳しさを痛感するところでもあります。当、長野県、県議会としても、親交・交流が大変に深い、北陸信越地区でもありまして、被災に遭われた皆さんには、心から御冥福と、お見舞いを申し上げます。現地におかれましては、1日も早い復興を願うところでもあります。県としまして、1日から、空からの、県警緊急救助隊、緊急消防救助隊、を派遣し、2日目からは、長野県DMAT災害派遣医療チームの派遣、又、市町村との連携で、避難場の支援、物資の支援、保健師等の人的支援など、長野県合同災害支援チーム「チームながの」として、救助・復旧・復興に取り組んでいる所でもあります。県庁内としても、危機管理部、健康福祉部、環境部、建設部など専門部局はじめ、教育委員会や他部局からも、各部局が総出で支援に取り組んでいる所でもあります。

又、2次避難につきましても、長野県でも公営住宅、教員住宅、警察官舎など準備し、安心して長野県で、生活できるよう準備を進めている所でもあります。昔は、災害は忘れたころやってくる。と言われていましたが今は、災害は、何時来てもおかしくない。という時代であります。

今日は久しぶりに、このような機会をいただいておりますので、何点か御報告したいと思います。

強烈な、自然災害の多発化、頻発化、円安や物価・資材の高騰、産業の人材不足など、抱える課題は大変多くあり、特に、少子化が進む人口減少は、これからの、最も大きな課題と言えます。高齢化対策は、ある程度の解決はできますが、少子化対策は、すぐには、解決はできません。少子化・人口減少の現状としましては、県民人口は、2000年をピークに減少し、2022年までの22年間で、20万人減少しています。2023年12月1日現在で、2,001,512人であり、2024年1月1日現在、2,000,991人で、2月、今月で、200万人を割り込むのは、時間の問題であります。また、2023年は、県外への転出者が33,300人(前年比953人増)で、県内への転入者は31,372人(前年比1570人減)と、1928人が流出する、転出超過となっております。首都圏への一極集中が加速しています。長野県を含む40の道府県では、人口が流出する「転出超過」であります。これは、コロナが明け、経済活動が活発化した他、就職や進学に伴う、首都圏への移動が増えた事と言われています。地方中枢都市を抱える県でも、転出超過が拡大しており、地方の過疎化が増大しています。最近の5年間の人口減少を見ると、1カ月で平均1,800人減少、2022年の出生は、12,143人で過去最低の更新、現状のまま推移した場合、2070年には約4割減の121万人に減少するといわれています。県におきましては、少子化・人口減少対策戦略検討会議を設置し、対策の方針を取りまとめ、県や市町村での事業化への検討、国への提言をし、優先的に取り組むべく方針を、速やかに実施していく予定です。県議会におきましても、少子化人口減少対策調査特別委員会を設置し、対策の検討を進めている所でもあります。2030年代になると、若者が急減する為、これから6~7年が少子化傾向を反転できるかのラストチャンスと言われています。ロータリアンの方々は、企業のトップであります。解決のための大きな柱は、7割が企業・労働関係で、3割が地域ではないか。と言われています。どの分野にも共通する事は、一番不足しているのは意識改革、社会慣行を変えていく事が、必要であります。意識改革には、トップダウンによる決断と実行が重要であります。

若い世代が、子供を持つことを「経済的リスク」と捉えており、若者の所得向上と、将来の見通しが、持てるようになっていく事が必要であります。正規雇用と非正規の、格差解消や、仕事と子育ての両立支援が、重要となってきます。雇用の在り方、意識の在り方は、県民運動的な取り組みがないと変えていく事は難しく、経済界、労働界、市町村と共に取り組む必要があります。地域の発展は、人口の増であります。若者、女性から選ばれる地域であります。この地域が選ばれる地域を目指して取り組んでまいります。

さて、阿部知事も、4期目を迎え昨年、新たな総合計画「しあわせ信州創造プラン3.0」を掲げ、～大変革への挑戦～「ゆたかな社会」の実現を目指してスタートしたところでもあります。世の中のニーズが多様化し、抱える課題も複雑化している中で、時代を進めていかななくてはなりません。コロナを契機として、技術革新が急速に進展すると共に、生活している我々のライフスタイルや、価値観が大きく変化しています。こうした状況の中で、環境と社会、経済が調和的に発展、人権や多様性が尊重され、誰もがその能力を十分に発揮できる、そんな社会を目指しています。本当の意味で「ゆたかな社会」を目指す為には、今までの発想に捉われることなく、社会や経済のシステムを大胆に、変革していく必要があります。今、時代の大きな転換点に立っていると、思います。



さて、お配りしています「県政報告・浅間の旋風」です。11月議会が12月15日に、県民の安全安心の確保、物価高騰対策など盛り込んだ、補正予算案を可決し閉会しました。591億400万円余の、補正予算案が可決しました。

本会議で可決された補正予算につきましては、当初、県補正予算101億円余でありましたが、国からの補正が490億円余ということで、総額591億400万円余となりました。国からの、補正につきましては、全国で4番目、北海道・東京・愛知に次いで、長野県であります。これにつきましては、県政の安定と、地元選出の国会議員はじめ、県議会、県職員の度重なる、陳情活動の成果と思えます。県民生活の安全・安心を確保するため、道路や河川の老朽化対策や通学路の安全対策、リニア開業に向けての、道路の整備などに充てられる予定になっています。

次に、常任委員会での活動についてお話したいと思えます。今、県内では高校再編計画が進められています。そんな中で、教育委員会でのやり取りをお話したいと思えます。

山岸委員

次に、小諸義塾高校についてお伺いしました。来年度(この4月)の新入生、令和7年の新入生は、新校が開校する令和8年の3年生・2年生として、新校で在校生になる訳ですが、今、懇話会での進捗状況はいかがでしょうか？

○小諸義塾高校の生徒募集に向けては、11月に上田、佐久、小諸の3市で、新校の学校説明会を小諸高校・小諸商業校と、教育委員会の共催で開催をいたしました。3会場を合わせて100名ほどの人々が集まったということで、新校への関心の高さがうかがえるところであります。

山岸委員

クラブ活動の関係にしても、令和8年には3年生・2年生が新校へ入ってきますが、クラブ活動も例えば期待をしている野球部とか、レスリングとか、いろいろ両校でも活躍しているので、そういうクラブ活動は、これから来年度の大会、令和7年度の大会、これについては、義塾高校として参加できるのか、小諸商業高校、小諸高校、分かれて参加するのか？

○現在、小諸商業高校並びに小諸高校で、野球部に限らず、運動系、文化系、多くのクラブ活動が大変活発に活動しており、近年、レスリングでありますとか、全国レベルの活躍をし、好成績を上げていると承知をしています。統合による新校開校後も、こういったクラブ活動がスムーズに展開できるよう、現在、学校現場では両校の教職員で組織するワーキンググループにおいて検討しています。少し制度に関わる部分も、運動部におきましては、令和6年度から合同チームの結成が可能になります。ただ、義塾高校ということではなくて、小諸商業、小諸高校の合同チームということになるかと思えますが、合同チームを結成するか、しないかについて、また、仮に部活によっては結成しない場合でも、合同の練習の実施や、その開始時期、練習場所、指導体制をどうするか？といったことなどにつきましては、まずは、各クラブを単位として、現役の生徒を交えて検討をしています。

山岸委員

私は何回も提案しているのですが、やはり小諸の新校音楽科についても、今からやっていかないと、なかなか生徒が集まらないという事があります。だから、特色ある学科ですので、情報発信を是非どんどん進めていくべきと思うのがいかがか？

○音楽科も含めまして、新校は、まだ詰めている段階であり、どんな学校になるか、どんな魅力的な学びができるかというような事を、一つ一つ丁寧に情報発信に努めていきます。

また、2028年には、長野県で国民スポーツ大会が開催されます。県におきましても、天皇杯、皇后杯と総合優勝を目指して取り組んでいます。本県開催での、国民スポーツ大会に向けての取組について、少しご報告したいと思えます。

山岸委員

後、4年後という事でございます。国スポ大会に向かって選手の育成等、しっかりとやられていると思えますが、組織体制、そして、また、指導体制、選手の発掘、育成強化、今の、進捗状況は如何か？

○現在の進捗状況ということで、今年の成績だけを見ると21位ということで、昨年から6位ほど順位を下げています。現在、競技力向上対策本部において、天皇杯と皇后杯に向けて、選手の強化に取り組み、これまで、主にジュニアの部分の強化育成という事を中心にやってまいりましたが、成年種別の強化もやっていく事で、今年度から、強化拠点のクラブを指定し、また、スポーツ専門員という形で、強い選手を確保していく取組を進め、現在、4名の選手が、スポーツ専門員という形で所属をしているという状況であります。指導者につきましても、今年度からは精力的に進めており、国スポに向けて、引き続き対策本部を中心にやっています。今年度の成績、結果だけを見れば下がっているが、ただ、内容的には、後もう一つで点数に絡めるような競技もあり、獲得点数は下がりましたが、全体の底上げができていますので、引き続きやっていきます。と言う答弁であります。未だいろいろありますが、委員会の報告とさせていただきます。

次に、中部横断自動車道につきまして中部横断自動車道の、山梨県長坂～八千穂間につきましては、いよいよ、国交省から長野・山梨県ヘルート案が提供され、長野県区間に係る、都市計画原案が発表されました。沿線地域の皆さんへ原案の説明会が開催され、意見交換を開催しました。これは、本当に大きな一歩を踏み出したところであります。

ICにつきましては、長野県側は、八千穂高原IC～小海IC～海ノ口IC～野辺山ICが予定されています。海ノ口周辺から野辺山にかけては、150mほどの橋梁が計画され、景観的にも日本一の橋梁で、観光にも大変注目されると予想されていますし、南牧村の高原野菜の優良産地は、トンネルで野辺山ICに出る予定です。佐久小諸JCから、八千穂高原JCまでの区間は、暫定2車線で共用していますが、長坂ICまで、都市計画の手続きにおいては、4車線で決定しています。現在の小諸～八千穂間も4車線で決定しています。何れかは4車線になる予定であります。今後の流れとしまして、都市計画原案と環境影響評価の

手続きを進め、地域の皆さんへの説明会、公聴会を開催し意見をいただく。都市計画原案とは、地域の将来あるべき姿、人口や土地利用の在り方、道路や公園などの施設等の整備を想定して、その為に必要な規制、誘導、整備を行い、その地域を適正に発展させようとする為の計画です。これから、都市計画の原案の公聴会を開催し、地域の皆さんの意見をお聞きし、都市計画案の作成、都市計画審議会に諮り、都市計画の決定を受け、事業着手に入ります。環境影響評価につきましては、環境に大きな影響を及ぼす恐れのある事業(中部横断自動車道)を実施する事業者が、環境への影響について事前に調査・予測・評価し、環境保全措置の検討を行い、住民や行政機関との意見を踏まえ、事業実施に向けて、適正な配慮をする仕組みであります。準備書を作成し、準備書の説明会を開催し、地域の皆さんの意見をお聞きし、環境影響評価の手続きをし、評価書の決定を受け、事業着手に入ります。両事業につきましては、今回示されたルート・構造を踏まえて、どのような環境影響があるか、調査、予測、評価を行う必要があるため、現時点ではまだ、期間を示すことはできません。又、県のホームページなどで御覧いただけたらと思います。以上で、県政報告といたします。今年も、良い年でありますよう、宜しく御指導お願いいたします。

## 【ロータリー財団 表彰】

PHF+1 橋爪 希望 会員  
(マルチプル ポール・ハリス・フェロー1回)



PHF 望月 完 会員  
(ポール・ハリスフェロー)



次週のプログラム: 2月8日 陣羽織贈呈式  
次々週のプログラム: 2月15日 休会